

令和 3 年 2 月 19 日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院薬学研究科長 殿

主 査： 遠 藤 泰



副 査： 小 林 道 也



副 査： 平 野 剛



副 査： 寺 崎 将



このたび 中 村 勝 之 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

外来がん薬物療法にかかわる薬剤業務の適正化に関する研究

2. 論文要旨 (別 添)

3. 学位論文審査の要旨

外来がん薬物療法における薬剤師の業務は多岐にわたり、とくに有害事象管理ならびに医薬品の適正使用が重要である。本研究では、進行腎細胞がん治療に用いるニボルマブや分子標的薬の適正使用の指標として蛋白尿を測定し評価した。また、診療ガイドラインに沿って施行される支持療法の顆粒球コロニー形成刺激因子(G-CSF)製剤の使用状況について検証を行った。

その結果、治療を行う上で蛋白尿の定性検査のみでは適正使用の目安にならず、定量検査を併用することが必要であることを示唆した。また G-CSF 施行時では診療ガイドラインと適合されていない例が認められ、その適切な薬物療法のためには薬剤師の関与が必要であることを見出した。

これらの薬剤業務に関する知見を見出した点は評価でき、また適切な考察が行われていることから、博士(薬学)の学位を認定しうるものであると判断される。

4. 最終試験の要旨

博士論文研究発表会における発表内容、発表態度、質疑応答さらに口頭試問における質疑応答も適切であったことから、博士(薬学)の学位取得に十分な学力を有するものと認められる。

以上の結果 中 村 勝 之 は博士(薬学)の学位を授与する資格の

ある

ものと判定す

る。

ない

以上